

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

大学の基本使命

芸術を学ぶ者達に、人類危機の時代を克服しようとする強い意志をどう植えつけるか。
他者の痛み想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう養うか。
困難な問題を解決し社会を変革する創造力をどう身につけさせるか。
すなわち、芸術家魂をもった者達をどう世の中に送り出すか。
文藝復興とは、文藝復興を担う人間の育成にほかならず、それこそがわが学園の最も重要な使命である。

建学の理念

芸術的創造と哲学的思索によって、良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造を目指す。

教育目標

人類が直面する困難な課題を克服する人間の「想像力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材の育成。
芸術文化を原動力とする新しい文明への展望と人類と自然への深い愛情に満ちた哲学の確立。

特色

京造形芸術大学では、通学課程を中心に「生きる基礎力をつける」「実社会を学びの場にする」ことを機軸にした人間力教育に、また通信教育課程を中心にした「多地域・多世代の教育」に力が注がれています。これらの取り組みはすべて、文部科学省の『質の高い教育推進プログラム(教育GP)』に選定されました(平成15年度「多地域・多世代の交流による教育プログラム」、平成20年度「頭と手を動かすワークショップ型初年次教育」「リアルワークによるキャリア教育」)。また、積極的に「国際交流プログラム」にも取り組んでいます。

生きる基礎力をつける

入学したばかりの1回生全員が、学科横断的に編成された1チーム約35名で体験型ワークショップに参加し、「モノの見方、作り方、考え方」など現代の社会で硬くなりやすい認知の枠組みを緩めることから大学のカリキュラムが始まります。その後、同じチームで3~5㎡の「ねぶた」のコンセプト構築からデザイン、模型制作、計画、制作まで3ヶ月半にわたって取り組むことで、個の力を集団で活かし、個人では成し得ないほどの大きな仕事をするためには何が必要なかを学びます。また「食」や「農」などを通じた五感を育むための取り組みも、生きる基礎力習得のひとつとして行っています。

マンデイプロジェクト：<http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/monday/>

実社会を学びの場にする(リアルワークプロジェクト)

各界の最前線で活躍する人に師事する機会を創出するため、映画スタジオや工房など、学内にその制作現場を設け、またインターンシップの枠組みを積極的に取り入れています。また、新商品のデザイン開発や百貨店のウィンドウディスプレイなど、産学連携のプロジェクトも専門部署を設置して年間58件を受託、573名の学生が参加しています。

リトルワークプロジェクト：<http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/realwork/>

ウルトラファクトリー：<http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/ultra/>

多地域・多世代の教育

18歳から96歳まで、日本全国津々浦々に通信教育課程に学ぶ学生がいることから、全国的なフィールドワークを展開し、地域固有の環境を活かした実践的な授業を行っています。これは単なる地域研究にとどまらず、地域間、世代間の交流そのものを貴重な学習機会として育てているもので、地域での新しい文化共同体の形成に寄与してきました。これらの活動の成果は、通信教育課程の在学学生・卒業生を中心にした東日本大震災の支援ネットワークが形成されるなどの形で花開いています。

国際交流プログラム

2007年に国際交流委員会が学内に設置されて以来、国際交流協定を締結した大学は2015年5月1日現在、24校にのびます。国際的に羽ばたくことを志す学生のための専門部署が設けられ、交換・認定留学、海外研修ツアー、海外語学研修、国際プロジェクトなど、様々な国際交流活動を推進しています。

国際交流の取組みについて：<http://www.kyoto-art.ac.jp/info/cie/initiatives/>

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

大学の基本使命 芸術を学ぶ者達に、人類危機の時代を克服しようとする強い意志をどう植えつけるか。 他者の痛み想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう養うか。 困難な問題を解決し社会を変革する創造力をどう身につけさせるか。 すなわち、芸術家魂をもった者達をどう世の中に送り出すか。 芸術立国とは、芸術立国を担う人間の育成にほかならず、それこそがわが学園の最も重要な使命である。
建学の理念 芸術的創造と哲学的思索によって、良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造を目指す。
教育目標 人類が直面する困難な課題を克服する人間の「想像力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材の育成。 芸術文化を原動力とする新しい文明への展望と人類と自然への深い愛情に満ちた哲学の確立。

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針／入学者受け入れの方針
芸術学部	<p>【ディプロマ・ポリシー】 京都造形芸術大学学士課程は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく「人間力」を備え、生涯を通して学び続け、社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材を育成します。</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】 京都造形芸術大学通学部学士課程のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる「創造力」「人間力」、それらを構成する7つの能力をバランスよく身につけることができることを方針としています。</p> <p>「創造力」は豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す力 ・好奇心をもって世界を観察し、知を求め発見することができる「探求力」 ・ものごとの関係性を見つけ、経験や知識をもとに考えることができる「思考力」 ・独自のイメージを発想し実現に向けて計画することができる「発想・構想力」 ・イメージやコンセプト、プランをさまざまな方法でかたちにできる「表現力」</p> <p>「人間力」は自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく力 ・みずから積極的、社会的に行動することができる「行動力」 ・目標に向かって、あきらめることなく続けることができる「継続力」 ・他者を知り協調し、よりよい関係を築くことができる「コミュニケーション力」</p> <p>カリキュラムは、「創造学習科目」「専門教育科目」をその二本の柱としており、それらを構成する各科目の編成方針は次のとおりです。 ・「創造学習科目」には、「創造力」「人間力」の基盤を形づくる「創造基礎科目」、これからの学習に必要なとなる教養や基礎力を身につける「基礎教養科目」「応用教養科目」、自分自身のキャリアをイメージし、それを現実に変えていく力を獲得する「キャリア創出科目」が含まれます。 ・「専門教育科目」には、学生一人ひとりが目指す専門的な目標を達成するための「専門科目」、学生のキャリアを資格面でサポートする「教職科目」「学芸員科目」が含まれます。</p> <p>また、カリキュラムの運営にあたり、上記7つの能力を、各科目の運営の指針とし、かつ評価指標とします。また、学生一人ひとりの習熟度、キャリアプランに応じた履修指導・学習指導を行います。</p> <p>【アドミッション・ポリシー】 京都造形芸術大学芸術学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに掲げる「創造力」「人間力」、およびそれらを構成する「7つの能力」を身につけようとする意欲と素養を持った人の入学を期待しています。そのため、入学までに以下の能力や態度を身につけた人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて学び続けるための基盤としての基礎的・基本的な知識・技能を習得した人 ・知識・技能を活用して、答えが一つに定まらない課題を解決できる思考力・判断力・表現力を習得した人 ・主体性を持って積極的、社会的に多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた人

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針／入学者受け入れの方針
大学院 芸術研究科 芸術専攻(修士課程)	<p>【ディプロマ・ポリシー】 修士課程では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、高度な成果物として表現できる人材を育成します。さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての確にまとめる能力(「修士(学術)」授与の場合)。 ・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与する能力(「修士(芸術)」授与の場合)。 <p>【カリキュラム・ポリシー】 ・「芸術による平和創造」という本学全体の理念の共有化を図るとともに、日本の芸術・文化の普遍性と個性を広い視野から概観することによって、学生の研究または研究・制作活動を刺激し、テーマの発見・探究・創出の糸口を提示する。 ・研究または研究・制作を進める上での基礎となる方法に関して、芸術研究の支柱である「比較論、歴史、造形史、精神史、身体論的研究」の各視座からその基底となる考え方を教示する。 ・各学生の専門的視座に特化した講義科目を開講し、新たな視点による芸術文化研究あるいは芸術表現に取り組む基礎を養う。 ・各学生に主たる指導教員を配し、個別指導を行なう。1年次は、主として問題意識の啓発とその研究展開を図る方法論を指導する。2年次は、1年次からの継続性を重視しつつ、学位審査に向けた(研究または研究・制作)課題の設定と、その提示方法の研鑽に主眼を置くものとする。 ・各学年において中間発表会を開催し、主たる指導教員以外からの指導を仰ぎ、修士成果物の質的向上を図る。</p> <p>【アドミッション・ポリシー】 ・豊かな感性と柔軟な思考を有し、学士課程の基礎をふまえ、各自の専門領域を構築して造形思想を深めるための能力を有していること。 ・芸術に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な思考とコミュニケーションの能力を有していること。 ・日本語と英語の読解力・表現力を有していること。</p>

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針／入学者受け入れの方針
大学院 芸術研究科 芸術専攻(博士課程)	<p>【ディプロマ・ポリシー】 博士課程では、人類の叡智を発展的に継承し、芸術・文化に関する優れた理論研究または研究・制作に邁進し、その成果を国際社会に広く発信することによって、芸術による平和創造の礎を築く人材を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究においては、芸術による平和創造に寄与する価値観の構築をめざし、既存の学問分野にとらわれることなく、幅広い視野と斬新な視点によって芸術文化の神髄に迫る能力の獲得を目指します。 ・芸術表現・制作においては、柔軟な思考と斬新な技術によって創造の地平を切り開き、真に現代的な芸術表現に挑み続ける能力の獲得を目指します。 <p>【カリキュラム・ポリシー】 ・徹底した個別指導を基本とし、研究者／制作者としての自立を促す。 ・研究発表・展覧会での作品発表を積極的に促し、多くの視点からの批判を仰ぐことにより、研究／制作の質的向上を図る。</p> <p>【アドミッション・ポリシー】 ・専門領域における広範かつ深淵な知見を有し、かつ新たな価値観の構築にむけて真摯に取り組む姿勢を有していること。 ・基本的には3年間で日本語による博士論文を完成させる研究計画と遂行力を有していること。 ・外国語(基本的に英語)による専門的語学力を有していること。</p>

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針／入学者受け入れの方針
通信教育部 芸術学部	<p>【ディプロマ・ポリシー】 京都造形芸術大学学士課程は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく「人間力」を備え、生涯を通して学び続け、社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材を輩出します。</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】 京都造形芸術大学通信教育部学士課程のカリキュラムは、「創造力」と「人間力」を高めるために、「総合教育科目」「学部共通専門教育科目」「コース(学科)専門教育科目」で構成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育科目では、教養ある市民の備えるべき基本的な知識、視点、リテラシーを学び、他者とのつながりを尊重する力を磨きます。 ・学部共通専門教育科目では、芸術を学ぶものにとって基盤となる知識、見識、技能を養い、ひとりひとりの生活環境を芸術によって充実させる力を養います。 ・コース(学科)専門教育科目では、それぞれの分野における専門性を獲得し、旧来の価値観に囚われない芸術的創造を生み出し、世界各所へ送り届ける力を身につけます。 <p>【アドミッション・ポリシー】 芸術学部通信教育部では、芸術やデザインに関心を持ち、それぞれの生きる場にありながら、柔軟な思考をもって他者と協力して社会に貢献しようとする志と意欲を持つ人を受け入れています。入学志望者には特に以下の点を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の人間・自然・社会の諸現象について問題意識を持つこと。 ・他者の理解を得ながら学ぼうとする真摯な姿勢を持つこと。 ・必要な知識や技術をみずから学び身につけること。
大学院芸術研究科 (通信教育) 芸術環境専攻	<p>【ディプロマ・ポリシー】 修士課程では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、高度な成果物として表現できる人材を育成します。さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての確にまとめる能力(「修士(学術)」授与の場合)。 ・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与する能力(「修士(芸術)」授与の場合)。 <p>【カリキュラム・ポリシー】 修士課程(通信教育)のカリキュラムは、ディプロマポリシーを達成するために「専攻共通科目」「分野特論」「研究指導科目」で構成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻共通科目では、社会や自然における芸術の意義についての認識を獲得します。 ・分野特論では、専門分野に関する知見を深め、研究制作を行うためのさまざまな技能や方法を身につけます。 ・研究指導科目では、独自性ある研究制作を自律的に遂行し、明瞭な形で呈示する能力を身につけます。 <p>【アドミッション・ポリシー】 修士課程(通信教育)では、さまざまな職業、経験を持ちながら、本学で芸術に関わる専門性を深め、社会で活動してゆく意欲を持った方の入学を期待しています。そのため入学者の選考にあたっては特に以下の点を重視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を尊重しつつ意見を交わしながら制作研究を続けられること。 ・芸術に関し修了研究・修了制作を遂行するのに必要な専門的な能力を身につけていること。 ・修士課程(通信教育)の教育目標や授業形態を十分に理解していること。